

『詩編 53—神は天から人の子らを』

武田真治牧師

詩編 53:1~7 ローマの手紙 3:9~18

毎月、最後の日曜日には『詩編』を一つづつ読み進めています。本日の詩編53篇は、実は詩編14篇とほとんど同じものです(5節と6節が異なるだけ)。どうしてだぶったまま詩編の中にこされているのでしょうか?

想定されていることは、この詩編が一度にすべてがまとめられたのではなく、既にいくつかの詩編がまとめられていたものが存在し(少なくとも5つ)、それらを一つにまとめたと考えられており、詩編14篇は3~41篇の『ダビデ歌集①』の中に既に入っている、同様に詩編53篇も51~72篇の『ダビデ歌集②』の中に入れられていたため、どちらかを削除するということを敢えてしなかったというところが本当だろうと考えられています。改めて味わいましょう!

この詩編は「神を知らぬ者は心に言う『神などない』と。人々は腐敗している」と始まり、「神は天から人の子らを見渡される。だれもかれも背き去った。皆ともに汚れている。善を行なう者はひとりもいない」と続きます。この言葉をイスラエルの民やユダヤ教の人々は、これこそこの世の中の腐敗した人々の様子を表すものだと見做してきました。そして「神を呼び求めることをしない者よ、大いに恐れるがよい」と、自分たちを迫害し、虐げている者達や敵国、他民族に対して、必ず神様の裁きが下るとの警告として、昔から、ずっと読んできた歴史があります。しかし、キリスト者である私たちはどのように受け留めれば良いのでしょうか?

実は、新約聖書の中に、この詩編の言葉が引用されて、その上でキリスト者の信仰に基づいて読んでいる人物がいます。それが伝道者パウロで、ローマの信徒への手紙3章10節からこの詩編を「正しい者はいない。一人もいない。悟る者もなく、皆迷い、善を行なう者はいない。ひとりもいない」と引用しています。大切な点は、この言葉を引用した理由であり、彼は「わたしたちには優れた点があるのでしょうか。全くありません。既に指摘したように、ユダヤ人もギリシア

人も皆、罪の下にあるのです。」と言って、その状況を示す聖句としてこの詩編を引用しているのです。これこそが私たちキリスト者の読み方だといえます。それは、誰か他の民族や無神論者のことを非難している言葉として受け取るのではなく、自分も含めて“人間の持っている、神様を認めなくなる罪”を示していると。私たちも含めて“罪人”であり、だからこそみんなに常に《悔い改め》が必要なのだと!

この詩編で「神を知らぬ者は“心”に言う『神などない』と」とあるのは、むしろ公には言えないからでしょう。それは異邦人ではなく、ユダヤ人の中で“心密かに”思ってしまうほどの厳しい逆境に出会うこともあるからでしょう。私たちもまたそのような弱さや現実をしつているのではないかでしょうか?「主よ、憐れんでください」と祈るしかない!

\*\*\*\*\*

【今週の集会】

\*聖書研究・祈祷会 I. 8月6日(水) 20:00  
II. 8月7日(木) 10:30

聖書研究: ローマの信徒への手紙

祈祷主題: 求道者会を覚えて

担当者: (水) 小草 (木) 蘆

祈りに覚える人: 丸茂さん 宮下さん

【教勢報告】

主日礼拝 男17 女62 計79  
祈祷会 I. 男4 女3 計7 II. 男1 女10 計11  
日曜学校 幼稚科6 小中科7 計13

\*\*\*\*\*

【次週主日礼拝】 8月 10日(日)

聖書: エレミヤ書 17:9~10  
ルカによる福音書 6:39~42

説教: 「ルカ⑤0一人のはらわたを究める方」  
武田真治牧師

讃美歌: 371(1)、32、509、479、530、

【次週当番表】 29(1)

司式: 斎藤長老 奏楽: 須田礼拝: 荻木長老

献金: 高橋 高村 受付: 鈴木 橋本

会堂準備: 飯島 岡本 金刺 中村

森本

看板: 岩佐 週報: 金刺 お花: 休み

【次週集会予定】

礼拝前: ・聖書輪読会 ・求道者会

礼拝後: ・平和祈念集会 ・壮年会 ・ダビデ会

# 週報

2025年度 教会標語

「主につながり、根を張り、枝をひろげて」

2025年 8月 3日

日本キリスト教団 上尾合同教会

牧師 武田 真治

〒362-0041 上尾市富士見2-3-33

TEL&FAX 048-771-6549